

機関番号：15401
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20520017
研究課題名（和文）ヨーロッパ中世におけるキリスト教および哲学のインカルチュレーション
研究課題名（英文）Inculturation of Christianity and Philosophy in Medieval Europe
研究代表者
水田 英實（MIZUTA HIDEMI）
広島大学・大学院文学研究科・名誉教授
研究者番号：70108257

研究成果の概要（和文）：

西欧中世思想におけるキリスト教および哲学のインカルチュレーション（文化内開花）のあり方をトマス・アクィナスの哲学思想の立脚点から解明し、さらに非ヨーロッパ世界におけるキリスト教および哲学のインカルチュレーションの可能性を問うた。これにより、今日の多文化社会において異文化受容という課題を果たすために、哲学の果たしうる役割を模索する手掛かりを得て研究成果を取りまとめ、図書・雑誌に論文として発表した。

研究成果の概要（英文）：

From the philosophical standpoint of St. Thomas Aquinas, having been clarified the way of inculturation of Christianity and philosophy in medieval Western Europe, the possible inculturation of them in the non-European world was questioned further. Thus, a role of philosophy in order to fulfill the challenge of cultural acceptance in today's multicultural society was explored, and the research results as articles in books and journals were published.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：哲学・キリスト教思想・ヨーロッパ中世・多文化社会・異文化受容・インカルチュレーション

1. 研究開始当初の背景

哲学史上の中世は、ギリシア哲学がキリスト教と遭遇したことによって始まり、乖離によって終焉すると言われる。しかし理性と信仰という異質の原理の遭遇によって、ギリシア哲学とキリスト教の「変質」がもたらされたとすれば、それは理性と信仰が「融合」して、新たに非理性的・非信仰的な原理が生じたからではない。

この種の「融合」を想定することは、理性と信仰という二つの異なる原理の異質性をあまりにも軽視し過ぎているのではないか。というより、この種の融合は原理的にみてありえないと言わなければならないのではないか。この点を十分に吟味し、むしろ西洋中世において、ギリシア哲学とキリスト教が遭遇したことによって、両者に何らかの「変質」がもたらされたとすれば、それは、両者がそれぞれに深化しえたことによると考えなければならないのではないか。研究開始当初、背景にこのような反省があった。

そこで、この深化という観点からトマス・アキナスの哲学をとらえることによって、ヨーロッパ世界のみならず非ヨーロッパ世界における哲学とキリスト教の受容のあり方を考察する手掛かりを得ることができるという見通しをもって研究を開始するにいった。

2. 研究の目的

哲学やキリスト教はいかなる意味で文化の一部に含まれ、また含まれないかという問題は、様々に問い直すことができる。本研究では、トマス・アキナスの哲学思想の立脚点から、西欧中世思想におけるキリスト教および哲学のインカルチュレーション（文化内開花）のあり方を解明し、そこからさらに非ヨーロッパ世界におけるキリスト教および哲学のインカルチュレーションの可能性を問うことを目的とした。

3. 研究の方法

それ自体として普遍的なものが、歴史的現実において特殊の相のもとに多様な仕方で存在するという点で、「キリスト教＝西洋の宗教」「哲学＝西洋哲学」といった等式について類似した吟味を加えうると考えられる。そこで、哲学やキリスト教はいかなる意味で文化の一部に含まれ（特殊）、また含まれない（普遍）かという問題を立てることができる。こういう見通しをえた上で、研究実施計画にあげた二つの課題について成果を得ることにつとめた。

すなわち、(1) いわゆる十二世紀ルネサンスの時代から十三世紀にかけて西欧思想界において、イスラム文化との交渉を伴う仕方で、キリスト教神学がどのようにしてアリストテレス思想との対決／受容を迫られたかという点を考察する。

また、(2) 十六世紀以降における非西欧世界での、哲学の受容のあり方およびキリスト教思想の受けとめ方について考察する。さらにサン・カルロス大学（フィリピン・セブ市）を訪問し、現在のフィリピンにおける具体的な事例の調査研究を通して、中世ヨーロッパ以来の一貫した特質を見出しうることを確認する。

4. 研究成果

本研究の出発点は、理性と信仰という異質の原理が遭遇するとき、原理そのものが融合して新たな原理が生じるのではなく、むしろそれぞれの原理がいつそう深化されると見るところにあった。この遭遇の結果として生じた、歴史的現実における所産を明らかにすることを通して、このように見ることが可能であることを確かめることを課題とした所以である。

研究成果として、(1) 中世哲学研究の視点か

ら哲学史を見直す必要があることを提言したほか、(2) 具体的に、「個の概念に関するトマス説」が、十二世紀後半以降に西欧キリスト教思想界にもたらされたアリストテレス説に関する深い洞察にもとづくものであることを指摘した。また、(3) 中世キリスト教思想の特色を明らかにすべく、(i) カトリック教会で行われるミサ聖祭には、復活の秘儀を祝うためにともに集まることとして、祝宴の性格をみとめうるけれども、この点は中世ヨーロッパにおいても変わらないこと、(ii) 『神学大全』においてトマス・アクィナスが提唱する「サクラ・ドクトリーナ」は、十三世紀西欧思想界におけるアリストテレス哲学の受容を可能にし、伝統的なキリスト教神学としての「聖書神学」と新たにもたらされたアリストテレス神学の対立を克服して、新たな思索の次元を生み出すにいたったこと、(iii) 「キリストは笑わなかった」という中世キリスト教社会の通説を吟味し、聖書に記された笑いの諸相について考察を試みたことのほか、(4) 本居宣長、中江兆民の場合に、それぞれ中国思想・西洋思想がどのように受容（反発）されたかという点を論じた。

以上の研究成果は、口頭発表のほか、雑誌論文および図書として発表した。次節に示した通りである。

なお、当初の見通しに添って、異質のものが遭遇することによってどのような結果がもたらされるかということの事例として、フィリピンにおけるキリスト教思想の現状を調査したけれども、この点について、今後さらに詳細に検討を進めることを課題として残している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

1. 水田英実, 「水草の上の物語」に見る寓意 — 本居宣長による漢意批判の二面性 —, 『比較日本文化学研究』(広島大学大学院文学研究科総合人間学講座), 3号, 査読無, 2010, pp. 224-235.
2. 水田英実, 古より今に至るまで日本に哲学なし — 中江兆民『一年有半』 —, 『比較日本文化学研究』(広島大学大学院文学研究科総合人間学講座), 2号, 査読無, 2009, pp. 1-19.

[学会発表] (計 1 件)

1. 水田英実, 哲学史を見直す — 中世哲学研究の視点から —, 広島哲学会第 60 回学術発表大会, 2009. 11. 7, 広島大学文学部

[図書] (計 4 件)

1. 水田英実ほか, 慶應義塾大学出版会, 2011, 『西洋思想における「個」の思想』, 384p. (pp. 69-87. 「個の概念に関するトマス説」)
2. 水田英実ほか, 溪水社, 2010, 『中世ヨーロッパの祝宴』, 178p. (pp. 46-81. 「祭りの中の宴 — ミサ聖祭の場合 —」)
3. 水田英実ほか, 溪水社, 2009, 『中世ヨーロッパにおける伝統と刷新』, 200p. (pp. 9-43. 「中世キリスト教思想にみる伝統と刷新 — トマス・アクィナス『神学大全』の場合 —」)
4. 水田英実ほか, 溪水社, 2008, 『中世ヨーロッパにおける笑い』, 184p. (pp. 9-41. 「笑いの諸相 — いま泣いているあなたたちは幸い —」)

[その他]

ホームページ等

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/mizuta>

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
水田 英実 (MIZUTA HIDEMI)

広島大学・大学院文学研究科・名誉教授
研究者番号：70108257

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：